

千代田区長に提案！  
新しいコミュニケーションの形

# ビジネスマン からの信頼

まず、自分はどうしたいか？

お店の掲載にあたっては、お店に電話でアポイントメントをとり、実際にお店に行つて掲載許可をもらう交渉をしました。冊子の主旨や自分たちの想いを上

イデアのほかにも、大切なことを体感できたと言います。

「学生をまとめるのが大変でした。しかも、営業から取材までを夏休み

手に伝え取材と撮影を行い、記事にまとめます。全部で1000件以上も電話をかけ、毎日お店を回りました。初めは緊張しましたが、少しずつお店の人につまく説明ができるようになり、自信もつ中に終わらせるというハードなスケジュール。みんなを信頼して任せるとともに、リーダーがみんなを引っ張って行くことが大切だと感じました。最後まで諦めずに100店舗を

「私たちが学生ということもあり、信頼を得るのが大変でした。遅刻をしないため社会人としての礼儀を教えた、

掲載することができて、本当に良かったです」。(編集長・平柳さん)

また、自分たちが納得のいくもの

信頼関係を築く努力をしました。また、掲載にあまり乗り気ではなかつたお店も、会う回数が増えるたびに打ち溶け、応援してくれるようになりました。

（参加した学生）

中で、自分がどうしたいのかという意図の軸を明確に持つことの大切さを再確認したと同時に、その軸を社会の中に落とし込むとき、柔軟性が

## 作成に 意されと祕密

# 二ヶ一会の形

フリー・ペーパーは「完成したら終わる」ではありません。きちんとターミナルで、どうあるべきかを再考する

ケントであるヒシヤブマンヘ田子を届けるため、駅前での配布や駅のラククに冊子を置きました。お店には希望の部数を手渡して直接届けました。

自分たちが作ったフリーペーパーを会社員の人が読んでいたり、お店の人から感謝の言葉をもらうという体験は、学生時代にはなかなかできないものです。

## 作成に 隠された秘密

10月には、学生フリーペーパー『コンテスト』に出場。決勝に残り、プレゼンテーションすることになりました。

# VOICE OF STUDENTS



チャンスは自分でつかむ。

この活動では、自分が普段学んでいるマーケティングの知識を実際の社会の中で体験でき、とても勉強になりました。教室で学んでいる勉強が実際の社会でどうに活きるのか、なかなか実感しにくいものです。しかし明治大学商学部では、社会の中で自分の力を試す機会がたくさんあります。大事なのは、やらされているという受け身の姿勢ではなく、積極的に楽しんで取り組むことです。やらされていると思うといい結果は出せません。つらくても楽しめること、自分から興味が持てることが、商学部では見つかると思います。

平柳 降 (商学部 3年)



上：表紙はインパクトのあるデザインに  
中：全員団結で最後の追い込み  
下：明大生にも心を込めて配布

# CASE 10

現在、数多くの種類のフリーペーパーが発行されています。そのジャンルは幅広くユニークなものもありますが、小川智由教授のもと、学生が中心となって制作しているフリーペーパーは常にコンテストの上位に輝いています。優れたフリーペーパーを発行したいという高い目標を掲げ、熱い想いで取材に、原稿作成に取り組む学生スタッフの姿がここにあります。

仲田真奈江(商学部 3年)  
Manae Nakata

この活動では、これまでに4冊のフリーペーパーを発行しています。最初は、「自分たちが通っている大学周辺のお店を知りたい」という気持ちから、気になつたお店に自主的に取材を行い、一冊にまとめて発行し、明治大学の学生に紹介しました。

そんなあるとき、この冊子づくりを千代田区長に報告する機会を得ました。その後、学生たちは千代田区から区の活性化を目的に、区内全域のお店を紹介するフリーペーパーの作成を依頼されたのです。

# フリー・ペーパー コンテストで優勝

テス<sup>ト</sup>で優勝

人と交換できるようにしたりしました。フリーペーパーに、こうした新しいコミュニケーションの役割を持たせた提案が評価され、この冊子は学生フリーペーパーコンテストで優勝を果たしました。

2008年は、冊子名を『Enjōy n't』に変更。千代田区のファンを増やすためにお店とお店スタッフの魅力を紹介しました。

